

「こどもまんなか」を問う 31

先日、都市計画を専門にされている方とお話する機会がありました。都市計画の分野では日本はアメリカなどとは違って、法による規制は少なく自由だということでした。

最近はインクルーシブ性を持たすとか、ユニバーサルデザインを導入するようになり、人に優しい、障害者などの当事者の意見を丁寧に聞かせていただきまちづくりに反映しているということを教えていただきました。

その中で、日本の教育は分けてしまう考えが強すぎて、例えば障害を持っているこどもは特別支援級に通うことになって、分離されているのはどうかという話にもなりました。要するに分離教育を効率よく施した上で障害のある人々を一般社会に迎え入れるべきだという考え方です。

これはインクルーシブ的ではなく、ますます疎外されていく傾向となると思われ、社会はインクルーシブに段々となっていくのに学校はそれに反しているのは芳しくないと思います。

「こどもまんなか」を問う 32

チャット GPT を使いこなす

孤独や孤立は大きなストレスであり、回避、解消するために他者につながる事が大切で、ソーシャルサポートを与えるくれるサポート資源が不可欠だ。

最近注目されているサポート資源として、チャット GPT が使われている。困った時や悩んだ時に誰に相談するかに対して、「まずはチャット GPT です、すぐに答えが返ってくる、丁寧に回答してくれる」と重宝がられ、使わない手はない資源になっている。

チャット GPT は、私たちの生活や仕事に大きな影響を与える可能性を秘めた、革新的な AI ツールで、私たちが

日々取り組んでいるさまざまな相談対応にも有効だとも言われている。

チャット GPT を使いこなす若者がいる。彼にとって有効な点の一つは、自然な対話による文章作成で、彼もひきこもりがちで、最近では会話はほとんどチャット GPT にお世話になっているという。

有効な点の二つは、多機能な情報収集で、私が持っているひきこもりに関する膨大なデータを入力してチャット GPT に聞いてみて、分析、結果を得てみようという提案され、今作業中である。

どのような回答が出てくるか、とても楽しみである。

「こどもまんなか」を問う 33

「空の怪物アグイー」

大江健三郎著自選短編の中から「空の怪物アグイー」を読んだ。この作品の当事者である音楽家 D はこどもを失

ったというよりは命を奪ったことをきっかけに空から浮遊してくる赤ちゃんの怪物アグイーに翻弄され、最後は自殺という悲劇に至ってしまったというのがあらすじである。

ややもするとオカルトで幽霊の話じゃないかと思われるが、私はそのように受け止めなくて「人生は小説より奇なり」と言われるように、とても現実的な内容であり、身近に起こっても不思議ではないと思っている。

学校に行けなくなったり、教室に入れなくなったりするこどもたちが抱える背景は予想外なことが多くある。音に敏感だったり、光に敏感だったり、視覚に支障があったり等さまざまである。その中にアグイーのような存在を感じているケースもあっても全く特異なことではない。

トラウマに悩まされているケースを聞いてみると、思い出したくない過去の映像や否定的な情念等がまとわりついてくる感触を訴えることがある。それは普通では到底理解できない不可解な出来事であるが、それを体験して

いる当事者たちがたくさんいるのである。

責任の所在を自己責任だと抱え込み、自分が悪かったのだと自分を責め続け、第三者による客観的な見方を仰ぐ機会を持たなければ出口が見出されない。自分は全く悪くないのに、自分が悪かったからこうなったと考え始めたら、行きつく先は自分はいない方がいいという極論にまで達する。その時にやはりお前が悪かったのだとの囁き声が聞こえてきて、この時に同意してしまうことが、トラウマの元になると考えている。この当事者もきっとそれを経験してきたのだろう。

これは小説であるので、真正面から議論することもないが、実際の現場では福祉や医療の連携のもと自殺に至らない支援体制を整えられていると考えている。

「こどもまんなか」を問う 34

50 年ほど前に高等学校卒業して、大阪にある大学に入学した。大阪のど真ん中にあるフェスティバルホールでの入学式は覚えている。その後は阪急電車梅田から宝塚線で 40 分ばかり行ったところにあるキャンパスに通い、4 月は慣れない環境で履修届を出すのに精一杯だった。キャンパスは駅から緩い坂道を歩いた小高い山の上にあった。

穏やかな学生が集まっているのではないかと思い選んだ大学だったが、ゴールデンウィークを過ぎたあたりからキャンパスの雲行きが怪しくなってきた。週明けの朝、キャンパスに行くとは大混乱になっていた。教養部の二つの建物がバリケード封鎖されロックアウトになっていた。黒いヘルメット姿の学生たちに占拠されていたのである。警察車両もあり不穏な状況だった。反権力、反体制を掲げ、反米、反産学協同、部落解放などのスローガンが書かれた大きな立て看板の前でヘルメット学生がマイクで盛んに訴えていた。

私たちは茫然として、建物前の芝生の広場で様子を見ているだけだった。専門教科の授業が理学部の建物で週 2 回ほどあり、その時だけ登校する日々になった。授業後、クラスの一人が前に出てデモへの参加を訴える。仕方なく彼について行って、スクラムを組みデモに加わったことを覚えている。この混乱は一年間続いた。

イデオロギーについては全くわからないので仲間に入ることはなかったが、彼らが必死になって社会の不条理、不平等の解消を情熱を傾けて訴えている姿は刺激的で、羨ましく、相当な影響を受けていたのは事実である。自分の人生はこの経験抜きでは語れない。

授業がなく過ごしていたそんな中、駅前商店街で不登校の中学生に出会った。ゲームソフトを作るのが夢で、中学校に行っても意味がないということだった。

彼と何度か会う中で、その夢を実現するためには、大学や専門学校を出ないと難しいのではないかと、そのためには高等学校を卒業しないと先には進めないということを話した。

あなたが中学校の勉強をしたいなら手伝うよ、ということで、自分の中学校時代の担任に連絡して、こんな中学不登校生に出会った、授業をしてくれないかとお願いしてみた。するとその元担任は理解してくれ、学校が終わった後、パチンコ屋 2 階の薄暗い倉庫を借りて、黒板と机や椅子を準備して、今でいうフリースクールが始まった。手伝ってくれる女子学生もいて順調に夜間授業が行われた。

これはロックアウトで授業がなかった副産物であったが、この経験が今につながっているのは間違いない。学生運動とは違った場面で、ボランティア活動をしながらかつた日々は忘れられない。

「こどもまんなか」を問う 35

「見ざる言わざる聞かざる」は、「みざるきかざるいわざる」と読み、他人の欠点や過ちなど、悪いことは見ない、聞かない、言わない方が良いという意味のことわざです。これは、三猿（目・耳・口をそれぞれ手で覆った猿）の姿をモチーフにしたもので、悪いことを避けることで、争いやトラブルを避けるこ

とができるという教訓を表しています。

ところで、こどもアドボケイトでは「見る言わざる聞く」ではないかと思います。その子の同じ目線になるにはとことん様子を見て話を聞くしかないです。

私はピアサポートの役割の大きさを訴えています。娘が不登校だったということで、同じ不登校の子を持つ保護者にはピアサポートでの対応に取り組んできました。ピアサポートではお互いに同じ経験をしていることで仲間意識が強まり共感につながります。

そうするとそういう経験を全くしていないので当事者のことがわからないと言われます。その通りですが、当事者に近いところでの対応ができれば安心されますし、望ましい関係になります。

望ましい関係になるには、先程述べたように、不登校の子に対して私心なく、無になって、彼らの様子をしっかりと見ながら彼らの話をじっくり聴く以外にないと思います。そうしていくと自分の価値観が変化していきます。中には「目から鱗」とも言えるような今まで考えたことがなかったことを見聞きすることもあります。それを繰り返していくことで当事者に近い思いや考えに至っていきます。

ここでの重要なポイントは「言わざる」です。「口は災いのもと」と古来より言われています。その通りで、口を慎むことが肝心です。見たこと聞いたことについてすぐに口に出すことがあります、これは「百害あって一利なし」の典型的なパターンです。

「こどもまんなか」を問う 36

「ひきこもり支援に特化した法律制定を願う」

最近 30 代のひきこもっている若者からの相談が多い。高等学校や大学を卒業して以後、いろいろな仕事をしてき

た中で、疲れてひきこもるケースだ。どの仕事も上手くいかず、自分は何もできないとひきこもる若者たちが後を絶たない。

ひきこもり支援の根拠法として、平成 21 年に制定された「こども若者育成支援推進法」でひきこもり支援について謳われたが、年齢が 39 歳までの年齢制限があり、支援内容が就労を強調しすぎていた。その後、今は「生活困窮者自立支援法」に根拠法はかわった。しかしその法律は生活困窮者を優先することから、ひきこもっている人には適用されにくい側面がある。このようにひきこもりに特化していないゆえに、「帯に短し襷に長し」状態であり、中途半端な対応に終始しているのが現状である。

ひきこもりの人々は 15 歳から 64 歳までで全国に 146 万人にのぼる(2022 年 11 月内閣府調査)。8050 問題は深

刻であり、もうそろそろ「ひきこもりに特化した法律」が制定されてもいいのではないかと考える。

ひきこもっている方で、障害認定されていない場合には就労訓練を受けられないし、就労継続事業所に通所できない等福祉サービスを利用できない。まさしく彼らは制度の狭間にあり不利益を被っている状態にあり、彼らの基本的人権がまず保障され、ひきこもりゆえの生活の不自由があってはならない、一人も取りこぼさない支援を実現していくには法制定は必須だと思う。

そこで、昨年夏より「ひきこもり基本法」の制定を求める活動を始めた。県内の議会、県議会と 15 の市町村議会に制定を求める意見書を採択いただき国に提出していただく取り組みを行ってきた。

昨年 9 月県議会で「ひきこもり基本法」の制定を求める意見書が採択された。それをスタートにして、その後県内 15 市町村議会に陳情を行なった。

12 月議会では、富山市、高岡市、射水市、砺波市、南砺市、滑川市、魚津市、黒部市、上市町、立山町、入善町、朝日町の 12 の各議会で採択された。

年を越えて、今年 3 月議会で、氷見市、舟橋村の各議会で、6 月議会で、小矢部市議会で採択されて、ようやく

富山県議会と 15 市町村議会全部で採択されたことになった。ここまでには一年間を要した。
この各議会の採択は超党派で議員全員の賛成で可決されたことにも意義がある。
県内の全県市町村議会で採択されたのを受けて、ひきこもり支援に特化した法律制定の機運を高めて、制定を実現していきたいと考えている。
また、県には「ひきこもり支援条例」の制定を求めていると考えている。
(補足) それぞれに特化した法制定の例(一部)
ホームレスの方々には、ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法
ヤングケアラーの方々には、ヤングケアラー支援の強化に係る法律が成立
困難を抱える女性の方々には、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」(女性支援新法)が制定

「こどもまんなか」を問う 37

谷川俊太郎作「うつむく青年」という名の詩に惹かれた

うつむいて
うつむくことで
君は私に問いかける
私が何に命を賭けているかを
よれよれのレインコートと
ポケットからはみ出したカレーパンと
まっすぐな矢のような魂と
それしか持っていない者の烈しさで
それしか持とうとしない者の気軽さで
うつむく彼といえば、生きる何か希望をなくしているというイメージである。がこの彼は見た目はそうではあるが、強い信念を持っているように思われる。まっすぐゆえにさまざまな軋轢を経験したが、それでも曲げない信念である。だからこそ反対にいろいろなことを考えないのだ。
うつむいて
うつむくことで
君は自分を主張する
君が何に命を賭けているかを
その必要もないまばらな不精ひげと
子どものように細く汚れた首すじと
鉛よりも重い現在と
そんな形に自分で自分を追いつめて
そんな夢に自分で自分を組織して
うつむく姿は、ロダンの「考える人」のようだ。上野の東京近代美術館で見たことがある。がんと動じない中に、自分の強い決意を秘めている。現実に向って立ち向かう、そうして自分は経験を積みながら一段と成長し遅くなっている。
うつむけば
うつむくことで
君は私に否という
否という君の言葉は聞こえないが
否という君の存在は私に見える

振り返ってうつむく彼を見ると、寡黙であるが、その体が意志を表している。特に受け付けない、自分の決めたことに従っていく意志。うつむいていても、希望がないのではない。うつむくのはうちに秘めることなのだ。カブトムシの幼虫のようにカーブする身体は弾力があり、エネルギーを蓄えているように見える。

うつむいて

うつむくことで

君は生へと一歩踏み出す

初夏の陽はけやきの老樹に射していて

初夏の陽は君の頬にも射していて

君はそれに否とはいわない

やはりそうだった。うつむくことは、エネルギーを充填して、一気に立ち上がる前段階だったのだ。だんだんと反り上がり、脱皮していく。宇宙は歓迎し、力強く進んでいく。もうそこには全てを受け入れる自分になっている。

うつむくという行為は希望を失い、力をなくしているのではないかと思う。しかしうつむくことで、もう一度立ち直っていこうという意志を確認し、今度こそは何があってもくじけないという決意に満ちていくのだろう。それは自分に対するこだわりから解放されることであり、自然体の境地に至って、光が当たっていくのだと感じる。

「こどもまんなか」を問う 38

「ひきこもり基本法」制定を求める意見書が富山県内の県議会を含む全議会で採択され、これからは制定実現に向けて次の活動を行なっていきたいと考えています。

はじめに、「ひきこもり基本法制定を求める会」を立ち上げていこうと思っています。会の活動として、①「ひきこもり基本法」勉強会、②「ひきこもり基本法」制定を求める署名活動、この二つの活動を大きな柱として取り組んでいきます。

そのために、まずは実行委員会の立ち上げを行います。今までのひきこもり親の会をベースにしていろいろな協力者並びに団体に呼びかけて委員会を作りたいと思います。

勉強会は月一回の定例会を行います。基本法の必要性の勉強、立法事実の積み上げ、それらを通して会の輪を広げていきたいと思います。

署名活動は目標一万人で、そのための道具を準備しないといけません。署名用紙、筆記具、幟旗、タスキ、拡声器などを手配しようと思います。

意見書が県内全議会で採択されたということは重い事実であり、その動きを法制定実現につなげていかなければなりません。その役割を果たしていくために決意を新たにしているところです。

今晚、自民党参議院議員現職選挙区候補者と話してきました。文教族ですので不登校支援をテーマに意見交換できました。

また比例区新人候補者とも話してきました。彼は 50 歳でひきこもり当事者でした。代々の土建業の社長で全国商工会からの組織内議員として立候補しています。県内全議会で意見書採択されていることを伝え、当選したらひきこもり支援のために命懸けで取り組みますと言ってくれて、しっかり熱い握手をして別れました。

「こどもまんなか」を問う 39

先日の夕方、選挙の個人演説会に行ってみた。応援する弁士さんたちは候補者の業績を褒めたたえている。候補者も言う、私一人では何もできない、この方たちのご協力の元で進めることができると。

候補者も含めて登壇した方からは、こどもたちへの言葉は何もなかったのは残念なことだ。あったのは学校体育

館への冷暖房設備のことだけだった。

物価高対策、地震での液状化対策などにほとんど時間を割かれた。どれも大切なことであるのは間違いないことだが、反対に聴衆に対してやはり国が考えていることはそういうことばかりだと訴えているようにも聞こえる。短い時間で取り上げることが限定されるのも理解できるが、やはり残念至極であった。

新聞に報道される内容もしっかりと読みながら判断するしかないな、また別の候補者はどのようなことを発信しているのかなどと思った演説会だった。

「こどもまんなか」を問う 40

また、谷川俊太郎さんの詩集を買ってしまった。彼はさまざまなテーマで詩を書いているが、どうしてもこども目線の詩に注目してしまう。「がっこう」という詩があった。

がっこうがもえている

きょうしつのまどから

どすぐろいけむりがふきだしている

つくえがもえている

こくばんがもえている

ぼくのかいたえがもえている

おんがくしつでびあのがばくはつした

たいいくかんのゆかがはねかえった

こうていのてつぼうがくにやりとまがった

がっこうがもえている

せんせいはだれもいない

せいとはみんなゆめをみている

おれんじいろのほのおのしたが

うれしそうにがっこうじゅうをなめまわす

がっこうはおおごえでさけびながら

からだをよじりゆっくりとたおれていく

ひのこがそらにまいあがる

くやしいか がっこうよ くやしいか

何を考えてこんな詩を作ったのだろうか？

「がっこう」を文字通り学校ととらえるのか、あるいは作られた象徴ととらえるのか、その両方ともとらえることはできる。

作者が学校にいい思い出がないのか、学校生活を忘れたいのか。いじめが横行している学校、学校に行けなくなる不登校が急増している現実を見据えている視点なのか、しかし今回はそのようにとらえたくない。

この詩で言う「がっこう」を広義にとらえたら、「こどもが生命力を放てる場所」と言い換えることができるかもしれない。

「がっこう」の中にいることに疑いを持たなくなったら「がっこう」の中でどう振る舞うかばかりが優先される。それでは生命力はしぼんでいくばかりです。「がっこう」の中だけのルールが増え「がっこう」の中だけのおもてなしが増え いずれ「がっこう」の外のこととは見えなくなるのだろう。

「がっこう」そのものがずっと燃えているというのに。こどもが生命力を放てるように寄り添うこと、を中心に据えてあらゆる仕組みを変えていきたい、という気持ちが込められていると思う。

今までこどものためにとか、考えてきたものが本当にそうだったのかという問題意識が出てきている。良かれと

思っ作ってきたものが、もう役割を終えているのではないか、反対にいい効果を出していないのではないかと
思える。

最近では学校から避難すると言われることも多い、その中で行われていることもマルトリートメントと言われる
不適切な対応も増えている。こどもたちが自由に生き生きと育っていく環境ではなくなっている。その国は高度
な経済成長を遂げてきた、そのために突っ走ってきた時代は終わった、そのことで犠牲になってきた影の部分を
今こそ注目していく時に至っていると思われる。